

今回は、日経新聞の「神経経済学」から紹介します。

1 万円を今貰うか、1 年後に貰うかを選べと言われたら、大抵は今貰う方を選ぶでしょう。

報酬が貰えるまでの時間が長くなるほど、満足度(効用)を割引いて感じる「時間割引」という性質が人にはあるからです。では、今 1 万円貰うか、1 年後に 1 万 5000 円貰うかどちらかと聞かれたらどうでしょうか？この様に、異なる「時間遅れ」で与えられる報酬のどちらを選ぶか問う事を「異時点間選択問題」と呼びます。この問題から将来の報酬をどれくらい割り引くかを定める「時間割引率」を求められます。時間割引は神経経済学でも大きく扱われているテーマです。

米スタンフォード大のサミュエル・マクルーア助教授らは、今日の 10 ドルと 1 か月後の 11 ドルのどちらを選ぶか、というような異時点間選択をしている時の脳活動を、fMRI(機能的磁気共鳴画像法)で測定しました。その結果、時間遅れの長さに関わらず、すべての選択で前頭葉の外側部や頭頂葉など、いわゆる理性に関わる部分が強く活動しています。今日という選択肢がある時は、線条体や前頭葉の内側部など、いわゆる感情に関わる部分がより強く活動していました。つまり、一人の人間には理性的に選択する部位と、衝動的に選択する部位の両方が存在している事を示唆しています。脳には、イソップ物語のアリとキリギリスが同居している様です。

大阪大の池田教授らのアンケート調査では、時間割引と肥満や喫煙、多重債務の関連性が浮かび上がってきました。異時点間選択問題で今日という選択肢を選ぶ傾向の強い人が、肥満や多重債務などの問題を抱えていることを示す結果が得られています。

Q 1 : 報酬が貰えるまでの時間が長くなるほど、満足度(効用)を割引いて感じる事を

何と呼んでいますか？

A 1 : ( )

Q 2 : 今日の 10 ドルと 1 か月後の 11 ドルのどちらが良いですか？理由も教えて下さい。

A 2 ( )